

<単元名>

個人の尊重と日本国憲法 ー第2節 人権と共生社会ー

ねらい

互いに主張する人権どうしがぶつかり合う対立の事例の解決策を考える活動を通して、「効率と公正」の観点や「公共の福祉」の考えから解決の糸口を見だし、根拠を明確にして合意に至る最善の方法を考え、表現することができる。

主なICTの活用方法

- ・ 既習内容や生活経験を基に、自分の立場を明確にして説明する。
- ・ 「効率と公正」の観点や「公共の福祉」の考えから、関連する法令を根拠に仲間に説明し、自分たちの結論を導き出す。

ICTを通じて育成する資質・能力

- ・ 既習内容や生活経験を基に根拠を明確にして、考えとその理由を明確に表現することができる。
- ・ 根拠になる関連法令を教科書や資料集、インターネット等から調べ、1枚のシートまとめ、表現することで、比情報を比較、整理して考えを再構築することができる。

実践の概要

前時までに、日本国憲法で保障されている人権に関わる法令やそれらに関わりのある事例等を基に学級全体で追究し、理解を深めている。

本時は、それを基に、互いに主張する人権どうしがぶつかり合う対立の事例の解決の方法を一人一人の生徒が選択し、その理由について根拠を明確にして表現する。導入で、教師は立場が示されているワークシートをオクリンクで生徒に配付する。それを受け取った生徒は、自分の立場とその理由を明確にして小集団で交流する。この話し合いから、法令を根拠にすることの重要性を確認した後、再度、自分の考えをもつ場を位置付ける。考えたことを仲間と協働的に追究し、小集団ごとに自分たちの結論を明確にしていく。話し合いでは根拠になる部分やキーワードになる言葉を吟味し、ワークシートに加筆しながら考えを再構築できるように言葉かけを行う。その後の展開中盤では、小集団ごとの代表者が、自分たちの結論とその理由を説明する。仲間との交流を通して、仲間の意見を踏まえ、結論に至る手続きの公正さに加え、機会の公正さや結果の公正さについても理解を深め、判断できるようにする。

生徒の学びの様子

- 自分の立場を明確にする際、教科書や資料集から既習内容を調べたり、インターネットを検索して関連する内容をワークシートに位置付けたりして、根拠を明らかにして表現することができた。
- 互いに主張する人権どうしがぶつかり合う対立の事例にあっても、両方の立場から関連法令を基に解決の方法を考え、吟味することができた。
- 仲間と意見を出し合うことを通して、考えの共通点や関連する点を見いだしたり、説明に必要な資料や核になるキーワードを位置付けたりすることができ、学びを深めることができた。



指導のポイント

- 一人一人が自分の立場を選択し、根拠を明確にして理由を明確に表現する場を位置付けることは、多面的・多角的に追究する力を高める面において効果的である。
- 仲間の考えを踏まえて小集団及び全体で交流をしたり、それを基に自分の考えを再構築したりすることは、公正な判断をする力を高める面において効果的である。